※令和４年度以降入学生用

学校番号	311

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	音楽 MOUSA１　（教育芸術社）						
副教材等	音楽の鑑賞資料と基礎学習（教育芸術社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

■「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽や幅広い音楽文化を視聴すること」を年間通して学習します。
■学習の到達度は、実技テスト、筆記テスト、ワークシート、授業への取組みで評価します。
■音楽の授業の最大の目標は、「一緒に音楽を楽しもう！」です。「楽しい」や「音楽って良いな」という気持ちに到達するには、ここぞという時に「音」に静かにじっくりと耳を傾けることが大切になってきます。そのことをいつも意識してほしいと思います。学校という場で一人では味わうことのできない楽しみ方を見つけてほしい。
■高等学校を卒業してからも、音楽が、皆さんの生活を潤す一助となることを願っています。

2　学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。個人の演奏だけでなく、重奏・重唱を通じて他者とのコミュニケーションをとりながら表現を深めていく姿勢を学ぶ。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	西洋クラシック音楽の三大要素であるリズム・音程・ハーモニーとその表現に必要な知覚を獲得できたか、獲得した知覚を表現するための楽譜の知識、技能に生かすことができる。	音楽の背景として、それぞれの分野ごとの音楽史と社会全体の歴史との関連を考える。 音楽様式を分析し、判断してそれにふさわしい表現に結びつける。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	初めてのギター	ギターという楽器の構造や音を出す仕組みを学ぶ。	a:楽器の構造を理解し、他の楽器との共通点、特異性を理解する。 タブ譜の仕組みを理解し、使えるようになる。 b:自分の出す音に耳を傾け、表現したい音になっているか自己判断ができているか。 c:練習に主体的に取り組み成果を上げているか。	ワークシート 観察	ワークシート 観察 実技テスト	観察
	歌唱と声の仕組み	発声の仕組みを学び、歌のイメージを表現する際に生かすにはどうすればよいのか工夫する。	a:発声が身体の構造や動きと直接関わっていることを理解する。 b:歌詞のあるものはその内容と曲がどのように表現されているか分析し、その点に留意して歌う。 c:練習に主体的に取り組み成果を上げているか。	観察	実技テスト	観察
2学期	ギターでメロディーを	メロディーとしてギターをしっかり鳴らし、響かせる。	a:澄んだよく響く音を出すためのポイントを理解する。 b:自分の出している音が美しいかの判断をできている。 c:より美しい音で旋律をつなげているか。	実技	実技テスト	観察
	歌唱	自然な発声で曲にふさわしい表現を探そう。	a:地域や年代によって歌唱の方法や、表現が違うことを知る。 b:課題の曲がどのような表現をすればよいか判断する。 c:ふさわしい表現をするための技能を身に付けようとしている。	ワークシート	観察 実技テスト	実技テスト 観察

※令和４年度以降入学生用

３学期	邦楽を知ろう	邦楽のいろいろな演奏を鑑賞し、その特徴を知ろう。	a:邦楽の歴史を鑑賞して時代の特徴を知る。 b:ワークシートでの設問に答える。 c:過去のものではなく、現代でも様々な形で触れていることなどに気づく。	ワークシート 観察	ワークシート 観察	ワークシート
	箏を弾いてみよう	実際に演奏に取り組んでどのような音を出せば邦楽らしさが出るか試そう。	a:箏の仕組みを知る。 b:美しい音を出し、旋律を音楽としてつなげるための工夫をする。 c:課題をこなしたうえでさらに工夫をしているか。	ワークシート 観察	ワークシート 観察	観察 実技テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度